

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0176400323), 法人名 ((株) 萌福祉サービス), 事業所名 (グループホームはぼ〜れ1号館), 所在地 (苫前郡羽幌町栄町111番地), 自己評価作成日 (令和3年2月28日), 評価結果市町村受理日 (令和3年4月12日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kjh_on=true&ligvosvoCd=0176400323-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年3月17日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

企業理念をもとに行動指針としてアクション8を掲げサービス提供を行っています。『「そこまでやるかを」をやってみる』『「喜びのサイクル」をつくる』『人としての「在り方」を大事に想う介護』『笑顔がないと価値がない』『命の尊さ」と命がけて向きあう』『「イメージで」語らない介護を』『「まじめである」はMEOの美学だ』『「世界のスタンダードとして、牽引し続ける』グループホームはぼ〜れは2ユニットで平屋作りですので、1,2号館の利用者様が行き来でき交流が持てます。現在外出を制限されてるので利用者様が室内でも楽しめるように、1,2号館合同でレクリエーションを月に2回は行ってあります。医療の面でも道立羽幌病院が訪問診療を実施し協力体制を図ってくれております。会社独自のパートナーシップ制度・学習システムを取り入れ職員が利用者様により良いサービスを提供と、職員のやりがいにつながっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は幹線道路沿いにある道立羽幌病院に隣接しており、肩を並べるように大型ショッピングセンターや羽幌町役場、羽幌高校があり、また海も望める恵まれた環境下に立地している。開設は2012年で、留萌や札幌で広く介護事業を展開している萌福祉サービスが運営を担っている。建物は木造平屋建て、棟続きにデイサービスセンターも併設され、グループホームは2ユニットの計18人の高齢者が生活を共にしている。設立されて16年近くが経過し、地域的な交流も進んでおり、幼稚園児やボランティアの訪問、事業所主催の「はぼ〜れ夏祭り」では、地元高校生ボランティアの協力や家族、地元の人々や子供たちが参加して地域住民と事業所の交流の機会を設けている。また外出も積極的に取り組み、その日の天候と相談しながら、小平町の鯉番屋に出かけて外食を楽しんだり、苫前町の風車祭りや羽幌神社祭の縁日見物、初山別の桜ロードへのドライブなど普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し出かけられるよう支援している。介護についても母体法人の行動指針アクション8を基礎として、利用者の持つ力を発揮できる様に努めており、また当事業所の介護員は20歳代から70歳までの幅広い年齢構成であり、多角的な視点から介護を検証し、多彩な論議や検討を重ね、サービスの向上に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自社の企業理念・行動指針の8か条を掲げ、朝礼時や会議時に唱和し職員は常に意識を持ち実践に繋げております。	法人独自の介護理念、事業所の年間目標を作り、朝礼時等に唱和して、その理念を職員間で共有して実践につなげている。特に行動指針、アクション8は職員全員が理解しており、実行している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナが発生している為行っておりません。	通例では、敬老会には幼稚園児の訪問があり、事業所主催の「夏祭り」では、地元高校生のボランティアの協力や家族、地元の人々や子供たちが参加して地域住民との交流の機会を設けている。今年度はコロナ禍により自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナが発生している為行っておりません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナが発生している為行っておりません。	推進会議は現状、電話にて開催しており、開かれた事業所として関係性の重視と意見の集約に努めている。	運営推進会議が召集できない現状で、電話での開催に敬意を表したい。今後は関係者や関係機関とともに全利用者家族宅にも議事録を送付し、開かれた事業所としてサービス向上に努めるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議ですこやか健康センターのみ取り組みを具体的に伝え協力関係を築いております。	行政窓口とは、運営推進会議や実施指導、制度の運用についても随時指導を受けており、情報交換も含め、小さな町でもあり信頼性のある関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない介護を行っております。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月毎に開催し、現状のケアの確認を行っている。また年に2回以上にわたり拘束や虐待防止の研修も実施し、職員にも周知徹底し、適切なケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社独自の不適切ケアアンケートを行い、虐待の防止に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い職員は理解をしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行い疑問点やご意見を伺い、再度説明を行い理解・納得をして頂いております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在は面会ができておりませんので、定期的に電話をし利用者様のようすを伝えると共にご意見・ご要望を伺い運営向上に繋ぎたいと考えております。	毎月「もえからの手紙」としてお便りを発行し、利用者の日々の様子を伝えている。また面会ができない場合は、電話にて伝えながら意見や苦情を収集し、それら意見を検討・反映しサービス向上に取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどで意見や提案を聞き運営に反映させております。	毎月の会議や申し送り時に、職員からの意見や提案、工夫、アイデア等を聞き取り、また必要時には個人面談も実施し、意欲ある意見が反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績を把握し給与や賞与に反映しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月学習システムを活用しスキルアップにつなげております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナが発生している為行っておりません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人・ご家族から要望や困っていることをお聞きしサービス計画書に反映させ、ご本人と安心して関係を築きます。(ご本人が困難な場合はご家族)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族の不安なことや困っていることをお聞きし、話あいを盛りながら信頼関係を築いております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時にご本人・ご家族が必要としている支援を見極め、介護方針指示書に繁栄サービスを行っております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分で出来ることは行って頂き、最小限の介護にとどめ施設内で出来ることを協力して頂き、お互いに助け合う関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と情報を共有し話し合いを持ちながら意向を反映しております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが発生している為行っておりません。	通例では、馴染みの景色や場所は限られているが、海や港は希望も多く、通い慣れたお店等々は買い物時に廻って確認したり、また墓参り等は家族の協力を得ながら関係継続に努めている。今年度はコロナ禍の為自粛している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士ゲームや体操を行い、かかわりを持って頂き孤独にならないように配慮しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族・ご本人の相談や支援を行っております。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	パートナーシップ制度に基づいて希望や意向の把握に努めております。意思表示が困難な利用者様には生活の観察を行い要望を導き出し対応しております。	日頃の利用者との会話等から、本人の希望や思いを把握するよう努めている。困難な場合は生活歴を参照したり、家族からの情報等を聞き取り、本人本位となるよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報やケアマネジャーから情報を得職員全員が把握しております。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が把握し実践しております。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族と話し合い、職員でカンファレンスを行い介護計画を作成しています。	日頃の生活等から、本人の希望や思いを把握するよう努め、本人本位の介護計画になるよう検討している。現状日誌やモニタリングは電算化が進んでおり、日誌上での反映について、効果を検証中でもある。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「ちょうじゅ」に記録し職員間で情報を共有し実践しております。サービス計画書や介護方針指示書に生かしております。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご意見・ご要望を伺い以降に添えるようにしております。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの為行っておりません。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	道立羽幌病院と訪問受診契約を結び、月一回受けております。体調に変化があった場合は受診をしております。	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医を優先しているが、少ない医療機関のため協力医と同じ場合が多い。また道立病院が隣接しており、病院との連携や通院への支援、日常の健康管理で適切な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員と看護師と連携をとり、報告・連絡・相談を行い適切な受診や看護を行い支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	道立羽幌病院の医療連携室と情報を共有し利用者様の状況を確認、相談を行っております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	道立羽幌病院の医療連携室と情報を共有し、早い段階でご家族と連携室や地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいます。	最終的な看取り介護については、医療的な限界で至ってはいませんが、医療との連携で出来るところまで寄り添えるよう、支援している。道立羽幌病院の医療連携室と連携し、他施設入居・入院について、責任をもって対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの操作方法や心臓マッサージの訓練を行い身に付けております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員がマニュアルに基づいて行動が出来るようにしております。役場や地域と連携をとっております。	年に2回、火災を想定した避難訓練を消防署の指導により、地域住民に参加を呼びかけながら実施している。食料の備蓄もあり、また停電時に不可欠な石油ストーブも取りそろえ、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ゆっくりとわかりやすい言葉かけを行い、尊厳を損ねないように対応しております。	礼儀は介護の基本であることを踏まえ、言葉使いや応接、プライバシーへの尊重等を日頃から気をつけるように徹底し、アクション8にあるよう尊厳の重視に向けて臨んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様と会話をもち希望や思いを表せるように働きかけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりのペースを大切にし、希望にそった支援を行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様のご希望を伺い衣類を用意し更衣して頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナの為行っておりません。	通例では、一人ひとりの好みや力を活かしながら、食事の準備や後片付け等のお手伝いもお願いしているが、現在はコロナ禍のため行っていない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人の状態を把握し食事を提供しております。極端に食事が少ない利用者様にはエンシュアで対応しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っております。できない利用者様は介助を行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を決めトイレ誘導を行っております。	トイレでの排泄を基本とし、職員間で情報を共有し、排泄サインでのトイレ誘導、時間による誘導等、その利用者一人ひとりに合わせた方法で、排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の促しや整腸剤の服用を行っております。DVDを活用し体操を行っております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっておりますが、時間帯は利用者様の希望に沿っております。	毎日がお風呂の日としてお湯を準備し、誰でも何時でもどうぞ、を可能にしている。お風呂で一番会話が弾むと支援する介護者も入浴を楽しみにしており、ゆっくりと話し合い、笑い合いながら入浴支援を続けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じてお昼寝をして頂いております。お部屋の温度湿度を確認し寝やすい状態を提供しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員がお薬の情報を理解しております。服薬時は職員2名でチェックを行った後に、ご本に確認して頂き服用して頂いております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳んで頂いたり掃除をして頂いたり、役割をもっていただいております。レクリエーションで気分転換を行って頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為行っておりません。	通例は、一人ひとりのその日の希望に沿って外出しているが、今年度はコロナ感染防止対策のため行えていない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る利用者様は自動販売機で飲み物を購入したりされてます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は必ず取り次いでおります。ご本人がかけたいと仰ったときもかけております。お手紙もご本人に渡しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や混乱を招くような刺激はありません。カレンダーや写真を張り季節を感じて頂いております。	共用空間は、季節毎の飾りつけや行事参加の写真が掲示されるなど、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。また利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、また温度や湿度も適正に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ席や静養室で外をご覧になりながらお話をさせていただきます。天気の良い日には外で日光浴をさせて頂いております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様がご自宅で使用していたものをお部屋に置いたりしております。	居室には本人の馴染みのある家具が置かれており、落ち着いた雰囲気である。室内の整理についても、本人の領域と支援の範囲が混同しないように話し合い、注意深く取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室などわかりやすく表示し転倒などが無い様、同線には邪魔な物はおいておりません。		